

# 洛友會報

京都府左京区吉田本町  
京都大学工学部  
電気工学科教室内  
洛友会

## 早春隨想

洛友会会長 松田長三郎

□ 新会員の皆さん、ご卒業お目出とう。心からお慶び申し上げます。小学校以来、最短距離でも十六年、螢雪の功を積まれて、茲に目出度、最高学府の業を終え、愈々実社会へ、社会人としての第一歩を履み出されることになったことは、ご自身やご父兄達のお喜びも、さこそとお察しします。この機会に、ご父兄は勿論、その他感謝恩の心持ちをもって、その期待に應える覚悟で十分健康にご注意の上、大いに頑張ってください。

今年で卒業の方は百三十名であるから、明治三十一年、創設以来、電気関係各教室からの卒業生は五一八八名を数え、これに電気工学講習所の卒業生一二七八名を加えて、我が洛友会の全員は、実に六四六六一三〇名の多きに達し、これらの人達が現在、関西地方に一九九八名、東京方面に一六三〇名、その他全国各地に、夫々の職域に重要な責務を果しておられ、学界は勿論技術界、経済界に活躍せられ、我が国が、世界の経済大国に発展するのに、重要な一環を果して来られたことを思い、感謝と慶祝の意を捧げたい。

私は、今迄人に使はれることなく象牙の塔の中で、凡て自主的にやらせて頂いて来たので、世間知らずであるから、自らの体験から処世について、皆さんにお勧めする資格は無いが、皆さんが、学窓から眺められていた実社会の現実はなかなか酷しいものがあるであろう。日進月歩の下における新技術開発は勿論、上司・同僚などとの対人関係など、場合によっては随分、不愉快なこともあるかも知れないが、何事も、「忍」の心構えで、隠忍自重することが大切と思う。大局的に言って、協調協和の

精神で、余りに自我を固執しないこと、そうかと云って、唯々諾々でも困るし、和して同ぜず。意見があれば堂々と主張するだけの見識と自信と勇氣を持ちたい。それには、やはり常時、専門的知識は勿論、人間としての自己修練陶冶を心掛けたいものである。大学で学ばれたことは、礎的な片鱗に過ぎないのであるから学界・技術界の的確な情報により、自らの思索開発が必要である。

□ 毎日毎日、多数の内外の書籍雑誌が教室の図書室に入ってきた。各学部・各教室には、夫々、自教室の図書室があるが、これを総括しているのが、大学図書館である。現在京大図書館には、四〇万冊の図書が収蔵されているが、東大には五〇一万冊、国立国会図書館には三六三万冊の由であるが、東大図書館は、先般の戦災で焼失したので、その復興には、米国のロックフェラー財団からの援助を受けたと聞いているが、そんな訳で、稀覯書など、古いものは京大図書館が、その宝庫になっている。国有の図書類は、凡て国会図書館で総括してコンピュータ処理されているから、希望の図書があれば、ここに照会すれば教えてもらえる。図書は唯、収蔵するだけでは、無意味である。広く活用してほしいものである。

□ 去る三月東上の際、偶々国会周辺の憲政記念館で開かれていた終戦時までの回顧展を観て、種々興味ある多数の資料に深い感銘を覚えた。就中、重臣や名士達の日記やメモ類には、頭のさがる思いをした。終戦当時、進駐軍が来るまでに各方面で、仕末された文書も多かったことと想像されるが、失はれた過去の記録は、再び出て来ない、惜しいことである。記録を残さないで、記憶に留めて置くことも、詳細なデータまでは覚えておられないし、記憶が弱いも無いとは言えぬ。こう考へて来ると、古い昔の記録でも、信じ難いものが相当あるであろう。展覧されているこれ等の日記やメモ類を見て感じたことは、こういうものの筆者の、これを書かれた当時の社会情勢や筆者の心境を察して、感無量であった。これらの筆者は、後年、自分の書いたものがこういう風に、衆人の目に触れるなどとは夢にも思っ居られなかったであろうと思う。たしか、西園寺公爵のメモだったと思うが、後で「火中」にと書かれてあったが、焼かれなくて、今に残っているのである。またある年の枢密院における御前会議で、沈痛な空気があつたが、誰れも発言するものがない。やっと伊東子爵が発言したが、軍部の関係者は無言であつた。お上は誰れも発言しないのにご不満のようで、自分は明治天皇の御製「四方の海みなはらからと思ふ世になど波風のたちさわぐらん」を拜誦していると仰せられたとも記録されていた。終戦直前、最後の御前会議では、主戦派・和平派双方、種々の意見があつたが結局、最後の御聖断によって終戦を迎へることになったのである。

□ この憲政記念館は、憲政の神様とまで言はれた尾崎行雄先生を顕彰するために建てられたものである。同氏は一八五八年生、昭和二九年・一九五四年没、九十五才の長寿を保たれた。幼少の頃は非常に弱かつたとのことであるが、昭和二三年・一八九〇年の第一回の帝国議会から一九五二年まで、六三年間連続二五回、連続当選されて、大正二年には犬養毅氏と共に、憲政擁護運動の陣頭に立つて活躍された。その他東京市長や文部や司法大臣なども経験されたこともあり、金権・権力に抗して常に清廉潔白、時に白刃に脅やかされたことも多かつたと云う。これはやはり、国家の前途を憂ふる憂国の至情、信念と勇氣の賜物であると思つた。ワントンのポトマ

するものがない。やっと伊東子爵が発言したが、軍部の関係者は無言であつた。お上は誰れも発言しないのにご不満のようで、自分は明治天皇の御製「四方の海みなはらからと思ふ世になど波風のたちさわぐらん」を拜誦していると仰せられたとも記録されていた。終戦直前、最後の御前会議では、主戦派・和平派双方、種々の意見があつたが結局、最後の御聖断によって終戦を迎へることになったのである。

夕河畔には、尾崎さんが東京市長  
在職中に寄贈された桜並木が、毎  
年、何十万と云う内外の観光客の  
目を惹きつけていると云う。

私は五十年前に、英国の貴族の  
家に、十日程泊めて貰って、英国  
貴族の生活の一端を、かいま見る  
機会を得たが、我國の皇室や皇族  
方とも御懇意であり、クイーンメ  
ーリーも朝餐にもお出になるとの  
ことであつた。同家のお客として  
泊めてもらつた最初の日本人は尾  
崎さんであり、第二番目が鶴見ゆ  
う祐氏、第三番目が私、第四番目  
が紀州の徳川頼貞侯であつた。こ  
んなことで、尾崎さんの演説は聞  
いたことはあるが、直接お話しし  
たことは無かつたが、テオドラ夫  
人は英人で、時々、先生とは意見  
があわず、そんな時には、私の懇  
意にして頂いていた東京のある名  
流夫人は、時々軽井沢の別荘に呼  
び出されて慰さめたが、お二人は  
乗馬、この夫人や令嬢は人力車で  
共に散歩を楽しんだとのことであ  
つたので、一層親近感を覚えてい  
る。

本の大船とならん」と、我れにつ  
いて来いと喝破された。何と豪快  
な、自信に充ちた、烈々たる獅々  
吼であらうか。我國の歴史を振り  
かえつて見ると、国難は幾度かあ  
つた。近代においては、明治維新  
がそうであつた。幕末・明治の初  
年における国内・国際情勢は、大  
変であつたと思はれる。まかりま  
ちがえれば、列強のえじきになり兼  
ねなかつた累卵の危期にあつた。  
今、日本は米・日・欧と、世界三  
極の一つになつてゐるが混沌たる  
国際情勢の中で、政治を預かる人  
は、余程しつかりやつてもらいた  
い。

□ 本会の前会長鳥養利三郎先生  
の述懐によれば、先生が京大総長  
在任中、偶々創立五〇周年（昭和  
二二年・一九四七年）に当るので  
衣食にも事欠く不自由な時代であ  
つたが、有意義な式典を催そうと  
諸外国大学の事例を調べられた  
が、その中で、慶応の小泉信三総  
長の、米国ハーバード大学創立三  
〇〇年記念式典（創立三五〇年式  
典には、京大を代表して大谷泰之  
教授が乗列された）の模様の記事  
を見つけた。式には、大統領  
初め、内外多数の来賓も見えた  
が、式中沛然たる豪雨になつた  
が、大統領初め、ズブ濡れに  
なつたが、誰れも席を外すものが  
無かつた由。京大では、総理大臣  
初め各界の名士を招待されたが、  
総理大臣には、是非参列してほし  
いと再三お願いしたが、遂に一片  
の返事さえなかつた。先生は憤  
慨しておられた。アメリカの大統  
領は豪雨のなかでズブ濡れになり  
ながらも、式典参列する。文化国  
家の大臣たるものは、教育の尊  
重・振興にもつと、留意すべきで  
はないか。

□ 筆者は、昭和十六年夏、鮮・  
満・北支・蒙疆の電力事情視察の  
旅をしたが、京城で、当時朝鮮総  
督であつた南次郎大将にお目にか  
かつた。その時、近く完成する黄  
緑江の水豊発電所（十万kw・七  
台、七〇万kw、全国産、日支事  
変中、大変な技術成果）落成祝賀  
会には、総督で自身、直接、お出  
かけ下さつて、慶祝と慰勞の意を  
述べてほしいとお願ひした。ソ連  
では、ドニエプル発電所（八一万  
馬力・九万・九台、これは、たし  
か米・英・独からの機械であつ  
た。一九三二年、筆者はここを見  
学した。）完成の際は、国家的盛  
事として、大々的にお祝ひをした  
とも附け加えておいたが、遂に総  
督は行かれなかつたし、日本の新  
聞もあまり紹介はしなかつた。科  
学・技術を尊重し、専門家を大切  
にする国になるには、前途尚程  
遠しと慨嘆したことであつた。  
昭和五七年三月十五日記。

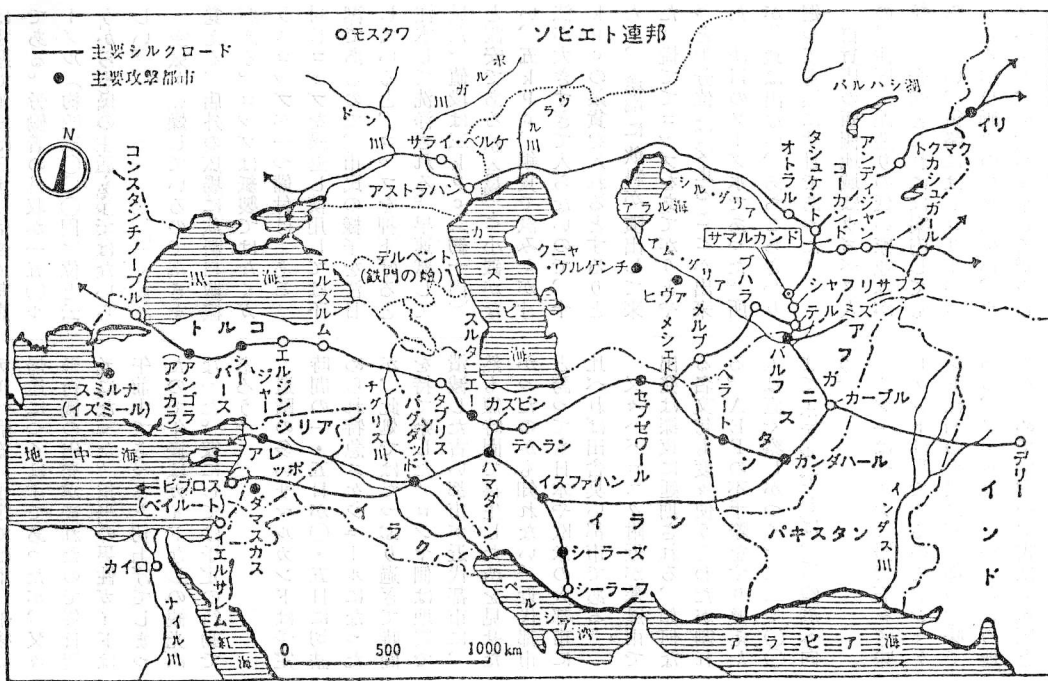
### ソ連領シルクロードの旅 ④

昭和七年卒 鈴木 茂

三月二十三日  
ハブニングが出体した。一行中  
に七八才の老翁氏が単身で加わつ  
ていた。因に最年長者は八十一才  
の京都の画伯で私は三番目と云う  
ことであつた。七八才氏が朝食  
に姿を見せない。昨日の午後から  
彼氏小々疲労が見えたが遂にダウ  
ンした。老年男子特有の泌尿科病  
気が再発したと云う。幸いにして  
ホテルには常駐の医師が居りその  
手当てで小康を得たが終日休養の余  
儀なきに到つた。旅の解放感から  
小々酒を過していらしいが、そ  
れに連日の強行軍による疲労が加  
つたものであろう。この同室の中  
年紳士が親身も及ばぬ世話をされ  
たのは感に堪へない。一行は病人  
を残して観光に出た。  
タシュケントはウズベク共和国  
の首都（口は一五〇万、ソ連第  
四の大都市であるが一九六六年の  
地震で全市が崩壊し、新都市が再  
建された。従つて旧蹟の見るべき  
ものはなかつた。  
西及び南から延びるシルクロー  
ドは此処で合流しフェルガナ溪谷  
を貫いて新疆省の天山南路へ通ず  
る。  
共和国は人口一五〇万、六五  
%がトルコ系のウズベク人、一五  
%がロシア人で昔から絹、棉花を  
生産する。  
再建された市街地は政治、文教  
リクリエーション、商業、及住宅  
地区に四分される。市域の東はロ  
シヤ人、西はウズベク人の住宅地  
であるようだ。  
政治区の中心街はレーニン街  
で、その中心に総理府庁舎である  
高層建築が二棟ある。市街の道幅  
は広く甚盤目状に区画され街路樹  
は豊かに茂り堂々たる近代都市で  
ある。オペラ劇場は第二次大戦後  
に建てられ日本軍捕虜の労力を使  
用された。  
文教区にはギリシヤ教会、大学  
街、産業博物館、建設中のテレビ  
塔等があつた。完成後のテレビ塔  
高さは三五〇mになると云う。  
バスを降りて産業博物館を參觀  
した。広い敷地は丁度桜が満開で  
白い花が一行を喜ばせた。花は山  
桜に似るが果実を主眼とした樹木  
である。  
博物館で知つた所では共和国は

絹の棉花や、非鉄磁石等を産出する。第二は、工場もあり建設機械、織布機械等も産出する。

全市に電力を供給する三〇〇万kw火力発電所 型があった。細長い建物に高煙が十本立並ぶも



のである。日本で云へば二〇〇三〇年前だったら斯様な形の発電所が建設されている。ソ連の技術水準は大分後れていると云えよう。

午後商業地区を訪れてショッピングをした。一般席はルーブル建である。此処で民芸品を買求めた。ペリョツカも買った。ソ連名産のキャビアも売っている。バザールにも立寄った。ブハラのパザールより品物は豊富である、氣候が温暖であるのでオレンジ、西瓜、胡瓜等の生菓物も並べてあるが値段は割高でオレンジ一つがドルと云う。西瓜、胡瓜はこの地方が原産で此処から中国へ伝えられたので西域の瓜、即ち西瓜、胡瓜、胡瓜等と云う。

夕方ホテルへ帰るとウズベク人のお上りさんでロビーはごった返している。第二次大戦の勇士であるるか、胸間に沢山の勲章をぶら下げたウズベク紳士の姿を見受けられた。ボルゴトラード(旧名スタリリングラード) 攻防戦や対ナチ戦線にでも突出された生残りの勇士であろう。

この大混雑の中で四台の高速エレベーターの三中台が故障でダウンした。吾々の部屋は十階にあるのでエレベーターに乗込むのに長時間待たされ大苦勞をした。一行中の若くて元気な人々は待ち切れずに階段を歩いて昇る人もあつた。

ウズスタンホテルは政治区とロシア人居住区の中間の広場に屹立する十六階、高層建築の堂々たるホテルである。

私共夫婦には十階の北端の部屋が当った。調度寝具等は質素ではあるがまずまずであろう。バス、トイレ付きであるが、トイレの上板は破損しており、バスは浅くて腰までしかつかからない。私共の場合湯は溜って久し振りに入浴したが他の部屋では栓がなくて湯が溜らないものもあったと云う。暖房はセントラル・ヒーティングで我が部屋は適温であったが、中央部の部屋では暖房が利き過ぎて苦しんだと云う話を聞いた。

窓の外はバルコニーで市街が一望下におさめられ、東方には白雪を戴く天山山脈の山並みが眺められ眺望は絶佳であったが、窓にはめられた大きな一枚ガラスは斜めにひび割れが走る。多分建築の歪みによるものであろう。

高層ホテルの生命は高速エレベーターであろうが、四台の三中台が故障して困惑したことは前述した通りである。又微調整が上等でないので乗降りには足許要注意である。

メリケン粉をパイのように焼いた中央アジア独特の食物と豊富である。料理は前菜とポルンチを井のような容器に盛ったスープと、肉料理の本菜の三皿と皿数は少ない、肉、野菜は少なくて澱粉質が多い。飲料はビールが出たが薄くて不味かった。

バンドが居りダンスも出来る。結婚披露宴等も此所で行れる。ウズベクのお上りさんにはロビーでメリケン粉やひき肉を販売しており自宅で料理出来るのも中央アジア独特の風景であろう。

三月二十四日  
病人も一日の静養で先づは元氣を恢復したので一同揃って観光に出る、  
工芸博物館を参観した。革命前にこの地の長官であった人の住んだ家で元はイスラム教徒の家であったと云う豪邸が博物館になっている。

屋内は壁、天井、柱は彩色された彫刻が施され、床には豪華な絨絨が敷き詰められ昔のイスラム長者の生活が偲れる。一行は靴に上穿をつけて参観したが、陶器、什器、宝石類や精巧な工芸品が陳列されていた。

午後は商業地区の百貨店を訪れた、大きな中層建築で市民の生活用品が豊富に陳列される。衣料品

は粗悪で値段は日本の倍位で割高である。労働者の月収が一五〇ルーブル(約四五〇〇円)位と云うから市民の生活も楽ではないらしい。

空気が乾燥しているので渴きを感じる、店外の広場に飲料自販機がある。コップは紙製ではなくガラスコップが一つ備付けてある。同じコップを繰返し使用しては不潔であるので、市民の様子を注目していると、コップを押下げると注水して洗浄される。早速試してみた。値段は三kpc(約十円)

と割安であるが合憎と小銭がない、五kpc、銅貨で試みたが寸法が大きすぎて入らないので、十kpcの銀貨を入れるとするり入り、途端に飲料が噴出して来た。慌ててコップをあてがうとや

つと半分位は受止ることが出来た。淡口のソーダ水であった。所が釣銭は出ない、あちこちさわり廻っても遂に駄目であった。

百貨店の西側地域はウズベク人の居住区で泥造りの低い家並みが続く。合憎とこれには案内しても

くはない、街路にはトロリーバスが走るが自動車の往来は少い、ウズベク人、男女が往来して雑沓していた、メドレセとモスレムが近くに

あったがこれは割愛した。時間がたつぷり余るので、ザールを再度訪れて時間を消化してホ

テルへ帰る。予定では本日午後には帰途につくはずであったが、又々飛行機の出発が後れたので終日観光になった。担当の男性ガイドは午前中でさつさと切上げてしまったので午後はガイドなしの観光になった。彼にしては予定の行動であらう。

遺蹟の多いサマルカンドは予定時間の一・五日が〇・五日に切詰められ特急スケジュールになったが、此処ではたつぷり過ぎて時間を持て余した。ロシア側は地震で潰滅した古い都市が近代都市に、然も短時間で再生した所を見せた

かったのかも知れない。近代都市と誇っても日本や欧米の大都市に比べれば田舎臭い都市である。又々ハバロフスク附近が暴風雨で

出発は深夜に延期される、如何なる名文句も度々使うとねたが割れる。AEFの不手際をすり換えた人は直ぐ察しがつく。二二：〇〇

までホテルでねばって空港へ向う。タシュはベルシヤ語で石を意味

しケントは町であるのでタシュケントは石の町又は石の都の意味である、フェルガナ溪谷からこの地方

を含めて中国の史書は大宛国と呼び新疆省を含めて西域と総称される。紀元前二世紀には漢の武帝

は軍隊を派遣して威した。大宛国は汗血馬の産地として知られ

の名馬を得たのである。唐僧玄奘三蔵もタシュケントを経由して印度に向う。当時は中国の勢力範囲と云える。

ロシア本土は前後二回モンゴル軍により征服された。最初はジングス汗の西征、次はチムールの遠征である。遠征軍はタシュケントを経由した。チムールの没後彼の

子孫が支配したが、若干の曲折を経てヒバ、ボハラ、コーカンドの三汗国が現在のソ連領トルキスタン地方を支配し十九世紀後半まで

続いた。帝政ロシアの興隆は近世史の明かにする所であるが、十九世紀

までにロシアはシベリヤを征服し更にトルキスタン地方に南下を進める。ウズベクスタンを含むトルキ

スタン地方は当時も棉花の生産地で当時興隆しつつあったロシア紡績業にとつては垂涎の地であった。

ロシア軍は鉄道を拓き兵站を確保し、前線部隊には大砲を配して

士民軍を圧倒した。一八六四年タシュケントは陥落しロシア領に編入された。

その後三汗国は独立を保ったが刻々に迫る危機を感じ固結して

立ち、サマルカンドのエミールが中心となって反ロシア戦線を固め、タシュケントの奪回を計った

が、反ってロシア軍に打破られ、

一八六八年サマルカンドはロシア軍の手に帰した。この時もロシア軍の惨虐な報復を被った。ボハラは以後ロシアの保護領となる。

一九二〇年赤色革命によりブハラ汗国は打倒サレ名実共に滅亡した。今はソ連領トルキスタンは北

### 宇宙開発雑感

昭和十九年卒 木村 小一

からカザフ、キルギス、ウズベク、タシュクと西方にあるトルクメン共和国となっている。住民はトルコ系で中国の史書の伝える突厥は彼等の祖先であらう。

(次号へ続く)

昨年(昭和五五年)に運輸省の研究所を退職する前の十年余りは、宇宙開発や宇宙利用に関係をし、いくつかのお手伝いもしてきた。専門の分野が船舶や航空機の航法であつて、これも宇宙開発とも共通の分野が少なくない。電子通信学会でも、宇宙・航空エレクトロニクス研究会として共通の研究会有るほどである。しかし、これらの分野はわが国ではその研究者および技術者の人口が少ないのが一つの問題点だろ。大学の講座があるのは、一、二のところにかぎられていると思われる。であるが、学問的に見ると、この分野はいろいろと興味のあるテーマが少なくない。この応用での電波の利用は一〇・二キロヘルツのオメガ航法システムから、レーダや将(衛星通信などのミリ波の領域まで、一般の通信ではまだほとんど利用されていない範囲もあるし、また、その中でも一・五ギガヘルツ帯のように従来はあまり利用されていなかった周波数帯の利用もある。アンテナを例にとるならば、対馬にあるオメガ局の高さ五百メートルという日本で最も背の高い建造物もあれば、アダプティブ(最適化)アレイのように最近に我が国でも研究が盛んになりつつある最も進んだ型式のアンテナはこの分野での移動体用に使用される例が多いものである。電波伝搬面でも、一般の通信では、受信電界強度についての解析が主であるのに対して、電波による距離や距離の変化の測定を行う航法システムでは、電波の伝搬速度とその変化の実態を知ることがとくに重要問題である。電波伝搬の専門家はなかなかそれに関する研究をしてくれないのが実情であ

る。このようなむずかしい話とはともかく、いろいろと変わったことにも出会うこともある。もう十何年前の話であるが、アメリカの海軍が打上げた人工衛星を使って船の位置を測定するシステムが、民間でも使用できるようになったという情報があり、それに伴うデータも得られたので早速に装置を使って実験をはじめた。いろいろ苦心の結果やつと受信点の位置が求まるようになったが、それをプロットすると地図上の位置から北北西に約五百メートルも離れたところを中心にはバラツクのである。その原因ははじめはなかなかわからなかったのであるが、いろいろ調べてみるとそれは当り前であることがわかってきた。アメリカの地図の緯度と経度の線を日本まで伸ばしてみると、日本の地図とはちよほどその位のずれがあるのである。これはそのみちの専門家には常識だとのことで、その原因の一つは、日本の場合には東京の麻布にあった測量の原点の緯度と経度を天体観測によって慎重に決定する。しかし、地球の重力の不均一によって、トランシットに吊下げている重錘が傾いて地球の中心を向かない、換言すれば水準器が水平にならないことになり、それが世界各地でいろいろな向きになる。

ことに起因する誤差がでるためである。古くは中国の測地を南北からして行ったら、楊子江でそれが合わなくなつたので、川の幅でごまかしたという話もある。アメリカの例の衛星を使ってグリニッジの天文台（ロンドン郊外グリニッジの丘の上にある。その庭には経度〇度の線が引いてあり、線をまたげば西半球と東半球の両方に足跡を印したことになる。但し、本当の天文台は別のところに移り、この天文台はいまは丘のふもとにある海事博物館の分室になっている）の位置を測定したらこの衛星システムによる経度〇度の位置は東へ約五・六秒（約三十分一トール）ずれて出たというレポートもある。もっと極端な例は海上保安庁が南鳥島の位置を別の衛星で測つたら、日本本土との関係にして、へ一五〇〇メートルずれていたということ。これは日本の宇宙関係者には有名な話となつている。これは重力の異常の大きな日本海溝の近くの島だからであろう。なお、前述のアメリカ海軍の航法用の衛星システムは、わが国では数トンの小型の漁船にまで普及し、現在は約三千隻の船がこれを利用していているという。

わが国では、毎日テレビなどで気象衛星「ひまわり」からの雲の写真を写し出してはいるが、宇宙開発に関するPRはまだまだであり、打上げが失敗すると非難の記事ばかりが出るのはどういふものだろうか。アメリカのスペースシャトルの打上げや帰還がテレビで実時間で見られるのは大きな違いである。さきごろ、アメリカへ出張の折、ワシントンの航空宇宙博物館やヒューストンのジョンソン宇宙センターを見る機会があった。その印象でいえば、スペースシャトルにかけるアメリカの意気込みがわかり、また博物館もこんな未来の問題を取上げ、多くの国民がそれに大きな関心を示し長い行列ができていることが印象的であり、わが国としても大いに考え

なければならぬと感じて帰ってきた（文部の幹事さんより、筆者がお世話をしている麻雀同好会のことなどを会誌に投稿してほしいとお話があったので、拙文でごかんべん頂くことにしました。東京支部の麻雀会は十二月十二日、新生電業の目黒寮で開催、十名の参加がありました。壁頭、中田良知氏（三八年）が久びさの役満（国土無双）で断然トップに立ちました。終盤、宗雪満夫氏（二十年）が逆転優勝、三位は高橋修氏（一七年）、ブービー賞は相木一男支部長（一五年）でした。毎春秋と春とに二回集まっています。

### 核兵器廃絶と

## 二十一世紀への伝言

講習所昭和十年卒 柴田 恕 平

私は一昨年現職を退き、現在は体の静養につとめています。戦後三十年間末端ながら、技術者の端くれとしての天職を果し得た事を誇りとし、ガンの治療を受けている者です。

最近世情に就いて、極めて関心を持って、ニュースを見、新聞を読んでいます。特に先日、湯川秀樹博士が亡くなられた時、博士は

なければならぬと感じて帰ってきた（文部の幹事さんより、筆者がお世話をしている麻雀同好会のことなどを会誌に投稿してほしいとお話があったので、拙文でごかんべん頂くことにしました。東京支部の麻雀会は十二月十二日、新生電業の目黒寮で開催、十名の参加がありました。壁頭、中田良知氏（三八年）が久びさの役満（国土無双）で断然トップに立ちました。終盤、宗雪満夫氏（二十年）が逆転優勝、三位は高橋修氏（一七年）、ブービー賞は相木一男支部長（一五年）でした。毎春秋と春とに二回集まっています。

題された、「軍縮への提言」を作文していました。

機せずして、博士のご意見を聞き、私の如き市井の個人ではあります。深く感じ、草の根の一株として、投書した次第です。勿論私の論文が採用され様とは思っても居りませんが、何かしなければ、将来の平和と、孫たちへの伝言が伝わらない様に思えてなりません。そこで一つの私案を考えつきました。最近ヨーロッパの各国では市民による核兵器廃絶と欧州諸国から排除しようという運動が盛んに行われている事が報告されています。我々日本人も、被爆国民として、呼応すべき時が来ている様に思うのは私だけではありません。

さて、その方法は色々あるでしょう。私も原水爆禁止大会にも出席し、平和大行進にも参加しましたが、既に二十数年、及んではいますが、核兵器の廃絶はおろか、益々、軍拡競走に拍車をかけています。去る昭和五十六年十一月二十六日の朝日新聞の「核軍拡と日本」の論旨の中に、「将来は、民間運動に依つてのみこれをくい止めねばならない」と発表していますが、その民間の運動は、我々一人一人の草の根の力の結集以外にはないと考えるのです。

例えば、核兵器廃絶の署名運動

を全国的に展開し、一人一人が、その勇気ある斗士となり、地域毎に或は又、職場内に、労働組合の組織の中に、学者知識人の集りの中に、一人が一票或は一人が十人に、十人が百人に、呼びかける運動こそが、核兵器廃絶の大勢力となるのではないかと思います。勿論大会も、否定しませんが、単なるお祭りに終ってはなりません。結集された声、無言の声としての核兵器廃絶への署名が、全国的に集約され更に国際的にも、此の運動を拡大するならば国連軍縮会議への大きな力となるのではないかと思います。次にその主題を三項目として書きますと、

核兵器廃絶のために、

- 一、如何なる理由があるうとも、如何なる国の人民も核による被害を受けないこと。
- 二、世界の人民は平和を望むが故に、核兵器による戦争を起さぬこと。
- 三、全世界の首能者は核兵器の廃絶により、二十一世紀の平和と地球上の環境を保持すること

以上の三項目を訴えることに賛成するものである。

これは私の夢かも知れませんが、このことを、我々市民の念願として、署名その他の方法によって結集し、政府、或は、最終的には国連軍縮会議に提出し、後世の

平和のために発案した次第です。たとえこれが、秋の夢であろうとも、平和を願う者の二十一世紀への伝言として受け入れてほしいと思ひ書きましたが、又これが市民のたわ言であるうと、二十一世紀即ち、我々の孫たちの時代が

昭和56年度電気系教室

卒業生の就職・進学状況

電子工学教室 主任 池上 淳一 (昭18卒)  
 電気工学第二教室 主任 卯本 重郎 (昭28卒)  
 主任 木村 馨根 (昭30卒)

電気系教室56年度卒業生の就職・進学状況について御報告致します。

新聞等によりますと、景気は低迷気味で、先行き必ずしも楽観を許さないようですが、新卒採用に関する産業界の意欲は今年も極めて旺盛で、電気系教室宛直接採用の御申込みをいただいた会社数は六五五社にものびりました。これは電気・電子工学の将来性に対する産業界の期待が大きいためであると、大変喜ばしく思っております。このような状態で、学部および修士課程卒業の就職希望者は、十一月中旬に全員無事、別表に示す通り、就職先が決定致しました。今年度は、学部・業生一三三名中七七名もの多数者が大学院へ

灰色の時代にならない様、核兵器による破かいがあつてはならないと念ずる者の叫びとして、諸先輩諸先生に聞いて頂きたく思ひ、拙筆をとりました次第です。  
 一九八二年十一月三十日

と大学院修士課程修了者数が六二名と少数であつたこと(昨年度は七〇名)により、就職希望者数が大巾に減少致しました。教室主任といたしましては、数少ない卒業生が特定企業に集中することのないよう、出来るだけ多方面の分野で活躍するよう極力配慮致しましたが、御熱心な求人御申込みに応ずることが出来なかつた面が多々生じたことを深くお詫び申し上げます。

博士課程の学生の就職は、教室主任ではなく、指導教授の推薦によつて行なわれておりますが、希望する職種に就職することが大変

難かしい状態にあります。また、学部卒業後五年間の規程年限内に工学博士の学位を取得することが困難なこともあつて、博士後期課程へ進学する学生数が次第に少なくなつております。三年前に後期課程へ進学した学生数は五名(内二名は外国籍の学生)でありましたが、内一名は二年前に企業へ就職、残り四名中一名は電々公社へ就職、一名は帰国、二名は留年することになりました。このような状態でありますので、博士後期課程のあり方については今後充分検討する必要があると考えております。

種別	学部	大学院	
官公庁	0	3	電総研, 郵政省, 電波研
通信・放送	1	5	電々公社, NHK, フジテレビ
電力	7	4	関西電力, 中部電力, 中国電力 北陸電力
交通運輸	0	2	阪急
電気・電子機器メーカー	25	32	東芝, 日立, 三菱電機, 松下電器, 日本電気, 富士通, ソニー シャープ, 横河電機, 富士電機 三洋電機, Y.H.P, 立石電機 村田製作所, 福井村田, 新日電機 パイオニア, 日新電機, 三菱原 子力, 富士フナック, ローランドKK
電線	0	2	住友電工
製鉄・金属	2	2	新日鉄, 川崎製鉄, 住友金属
機械・自動車	5	5	三菱重工, 川崎重工, トヨタ自 工, 日本電装
精密機械	2	1	島津製作所, 富士ゼロックス, キャノン
その他の会社	4	1	住友商事, 藤沢薬品, 東レ, コンピュータ・サービス
その他	0	1	
進学	77	4	京都大学, 東京大学修士課程1 名
合計	123	62	

最後に例年卒業生の採用につき御高配をいただいております洛友会会員諸兄に厚く御礼申し上げます。すとともに今後、相変らぬ御支援助を賜わりますようお願い申し上げます。

## 昭和57年度総会通知

本年度は総会の特別行事として母校京都大学電気系教室の改築工事がほぼ完了し面目を一新しましたので、この見学会を行ない、終つてから関西支部総会に引続き洛友会総会を催します。改築の件に關しては度々洛友会報上に紹介されてはいますが、百聞は一見に如かずともいはれていますので、是非この機会に奮つてご参加下さい。尚その時期には完全に改築が完了されず、内部の見学は出来な

いかも知れませんのでその時は悪しからずご寛容下さい。

一、年月日 昭和五十七年六月十二日(土曜日)

二、見学会

(イ) 集合 一・三〇 京都大学電気教室電気総合館

(ロ) 行事 一・三〇〜二・三〇 説明と見学

三、総会

(イ) 場所 新ミヤコホテル(京都駅八条出口前)

(ロ) 行事 (一) 関西支部総会 三・三〇〜四・〇〇

(二) 本部総会 四・〇〇〜四・三〇

(三) 懇親会 四・三〇〜六・〇〇

四、会費 会費 三、〇〇〇円 同伴者 一、五〇〇円

但し昭和五十七年三月卒業生は無料

会費は別紙総会振替用紙にてお払下さい。尚これをもって総会出席通知に代えますのでご出席の方は五月二十日までにご返事をお願い致します。本会にはご家族同伴を歓迎しますので多数お誘い合せの上ご出席下さい。

## 洛友会々費納入のお願い

昭和五十六年度会費未納の方は納入請求の印を押して会報と共に

お送り致しますので速にお払込み下さい。

昭和五十七年度の会費も早目にお払込み願います。会費は本会存続の鍵ですから納入率向上には各位のご協力を切に

お願い申し上げます。

## 講習所卒業生の皆へ

若葉の光もさわやかな好季節となりました。同窓の皆さま卒業以来六十七年から四十二年の春を迎へましたがお元氣でお過ごしでしょうか。皆さまのご身辺にもいろいろの移り変わりがおありのことと思ひますので、その後の報告などもかねて想い出深い京都でアルタ全国大会を開催し見学会と懇親会を催しますので御出席下さいますようお願いいたします。なお御出席の方は左記幹事長上野満迄にお申込下さいますようお願いいたします。

記

一、日 時 昭和五十七年九月二十五日(土)午後一時

一、集合場所 京都大学工学部電気総合館

一、見学先 京都大学イオン工学研究室

一、懇親会場 京都市中京区河原町竹屋町東入「石長」

同日午後六時より

一、会費 懇親会のみ 金一〇、〇〇〇円

一泊(朝食付) 金一五、〇〇〇円

一、申込期日 昭和五十七年五月三十一日迄

一、申込先 郵便番号 六〇三

京都市北区紫野御所田町六五 上野 満

電話番号 〇七五一四五一一二一八六

一、振替口座 京都 三九八三番

## 関西支部家族見学会

さる十一月八日(日)関西支部

恒例の家族見学会を行い、伊賀上野を經由、陶器のふるさと信楽を訪ね、晩秋の一日を楽しんだ。

心配された天候も早朝から青空

に恵まれ、主催者を安堵させた

が、気温はことの外、低く京都で

は、ほんの少しではあったが、み

当初は、五月橋サーベイス・エリアにて大阪、京都両グループが合流する予定であったが、京都側がバス延着のため、スタートが遅れたので予定を変更し、伊賀上野市の西端にある「鍵屋の辻」という処で合流することになった。

「鍵屋の辻」は古来、奈良から伊勢へ通ずる交通の要所で、寛永十一年、荒木又右衛門が河合又五郎を討取ったとして有名な処。ここで伊賀越資料館を参観した。気温はいよいよ低下し、寒風に首をすくませる場面が見られた。丁度正午頃、昼食会場である伊賀上野城下、料亭「京家」に到着、大広間に一同くつろぐことができ

た。まず、最初に佐々木支部長の挨拶があり、続いて大谷副会長の挨拶、並びに新たに洛友会常任幹事に就任された山口さんの挨拶があり、近藤先生の音頭で一同乾杯して会食、懇談の宴に入った。

宴たけなわ、池上先生から恒例の電気教室の近況報告をして頂き、引き続き、テープから流れてくる「洛友会の歌」(松田会長が作詞、作曲された)を聴きながら、宴を閉じたが、当日は松田会長が御欠席のため、その解説等をお聴き出来なかったのは残念であった。

食後は、上野城をはじめ忍若屋

敷、鬼行列保存館等を参観したが、忍者の知恵に感心したり、最近TVドラマ等でお目にかかる機会の多い忍者の装束を見付けて奇声をあげたりする人達もいた。

午後三時開演、伊賀上野をあとにして、日本六古窯の一つで、「焼物の町」として知られる信楽へとバスを運ねた。

しのび寄る晩秋が木々を紅葉に染めた山道をぬって行くと、タヌキの焼物の目立つ静かなたずまいの山里の町が現れてきたが、そこが目的地「信楽」であった。

信楽は流石、焼物のふるさと、国鉄信楽駅の付近には大きな焼物の店が散在しており、三三五五買物を楽しんだり、町営の信楽伝統産業会館で折柄、開催中の朝日陶芸展を見学したりして時を過したが、再びバスを運ねて名阪高速道路経由、京都、大阪へそれぞれ帰着した。

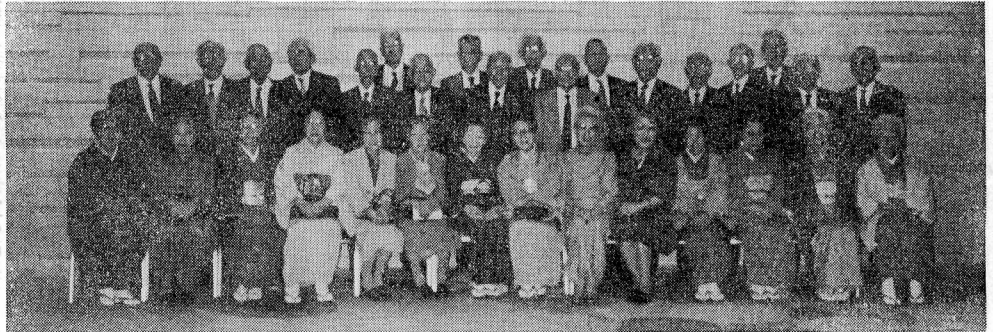
自動車事故による交通の大停帯に遭遇したのも、今は思い出の一つである。

(金原記)

### 同窓会記事

#### 十四日会 (第二十一回)

昭和五十六年十一月、東京で大正十四・十五年卒業生の十四日会第二十一回を開催。



十日ひる歌舞伎座観劇、よるは三菱クラブで会食観談。翌十一日午前は警視庁新庁舎見学。正午より棒山荘で会食観談。来年は関西で開催を申合せ。会した。

出席者(大正十四年)一本松、

富永、橋本、山崎、山上、沢山、口羽、渋谷、藤田、西原、(大正十五年)石川、飯村、稲垣、歌原、奥原、白川、田中、吉村、小宮。

以上計十九人、他に夫人十四人参加。

(小宮記)

#### 卒業25周年クラス会

昭和五十六年十一月二十二日(日)午後六時より、長岡京市錦水亭にて卒業二十五周年クラス会を開催した。恩師松田長三郎先生、林千博先生、大谷泰之先生をお迎えし、卒業生二十三名が出席した。

卒業25周年記念  
昭和56年11月22日 長岡京市錦水亭

出席者  
松田長三郎 恩師  
林千博 先生  
大谷泰之 先生  
若原 先生  
山崎 先生  
石川 先生  
飯村 先生  
稲垣 先生  
歌原 先生  
奥原 先生  
白川 先生  
田中 先生  
吉村 先生  
小宮 先生  
若原 先生  
山崎 先生  
石川 先生  
飯村 先生  
稲垣 先生  
歌原 先生  
奥原 先生  
白川 先生  
田中 先生  
吉村 先生  
小宮 先生

松田先生のご発声で乾杯のあと、各人の近況報告が始まるや、談論風発、和気あいあいのうちに

時のたつのも忘れるほどであった。最後に松田先生のご指導で、先生の作詩・作曲の洛友会の歌を斉唱して散会した。翌日は午前九時より京都東コースにて腕自慢の有志がゴルフを楽しんだ。

(安陪記)

#### 洛友会

##### 北海道支部報告

十一月二十四日、札幌市「城ヶ崎」で、北海道支部会員が、情報工学教室津田先生をお迎えして支部総会を開いた。

津田先生は、前に北大教授をしておられたので懐かしく、教室の近況を、古都の風情を折りまぜてうかがい、訪れる機会が少い我々にとって郷愁をそらされた次第でした。

今回集るチャンスを作っていただいた高橋博美兄に御礼申し上げますとともに、突然の集合のため、都合のつかなかった方々にお詫びします。次回のご参加を期待しております。

(芝山記)

#### 事務局よりお願い

○会員名簿について  
会員名簿の、より一層の正確を期するため、勤務先、職業、住所その他へある場合は、その都度会員各位から直接事務局宛ご通知

#### 計報

講大5年	小出 博一	56・12・28
講大6年	松田 代造	56・11
講大11年	太田儀一郎	57・2・18
講大14年	織田源二郎	56・11・30
昭2年	柴田 晃	57・1・25
昭20年	佐藤 真成	56・12・10

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

下さるようお願い申し上げます。尚友人知人の名簿が間違っていることとお気附の場合も併せてお知らせ下さるようお願い申し上げます。

○洛友会報について  
会報は会員相互を結ぶ唯一の方法ですので、会員各位より感想、身辺記事、外遊記事その他を振ってご寄稿下さいますようお願い致します。但し紙数の都合で次号に掲載できず頂く場合もありますので予めご諒承下さい。